さくら市

校務DX計画

　本市は、校務支援システムを早期導入するとともに、１人１台端末の導入に合わせて、授業支援ソフトや学習ドリルを活用し、デジタル化を進めてきた。

また、令和５年度には、保護者連絡ツールを活用し、出欠連絡もデジタル化してきた。

さらに、オンラインでの会議や会議資料のペーパーレス化なども進めてきた。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多く見られるのも事実である。そのため、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要がある。

「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸチェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定める。

１．ゼロトラスト環境の整備

（１）校務系及び学習系ネットワークの統合

　　　さくら市では、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒が教育活動で

利用する「学習系」に分離し、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアク

セスできない構成とした。

　今後は、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキ

ュリティの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえ

で、校務・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めるとともに、ルール作り

を行う。

（２）校務支援システムのクラウド化

　　　現在、校務支援システムはオンプレミス（サーバ上）で運用している。今後は、保護

　　者連絡アプリなど汎用クラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーシ

ョンの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムの次期更新時のク

ラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、進めていく。

（３）教育ダッシュボードの創出

　　　学習系データ、ＭＥＸＢＴなどの教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等

　　の校務系データ、教職員の出退勤情報など、膨大な教育データを収集・分析・可視化す

　　るインターフェース（教育ダッシュボード）を構築し、そこから得られる情報を効果的

　　に活用して、業務及び授業の改善につなげることが期待される。

２．ＦＡＸ及び押印の見直し

　　保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した

　校務DXを大きく阻害していることが指摘される。そこで、まずは、システムを導入することにより、出勤簿の押印の廃止から始める。その後、年休簿や旅行命令簿などの校内

の事務的な書類からデジタル化を進めていきながら、少しずつ押印廃止を進めていく。

　 また、システムの導入により、学校と市教委間の文書連絡を容易にすることで、紙ベースやFAXでの資料配布からの移行を図る。ただし、緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAXのほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAXの原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、市教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

３．ペーパーレスの推進及び校務における生成ＡＩ等の活用

　　これまで、各校において、教職員間の情報共有のデジタル化や研修資料のアーカイブ化

　等を進めてきました。また、市教育委員会でも、会議資料のペーパーレス化を推進してき

ました。今後は、システムの導入により、グループフェア機能の活用や電子決裁システム

の導入について研究していく。

　また、リーディングＤＸスクールの生成ＡＩパイロット校の取組みを参考とし、生成Ａ

Ｉを活用した校務の効率化を推進する。